

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791900014		
法人名	社会福祉法人 麗峰会		
事業所名	グループホームいえしま		
所在地	沖縄県国頭郡伊江村字東江前2337-2		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和 5年 11月 8日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4791900014-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和5年 9月 11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症によって自立した生活が困難になった入居者に対し、家庭的な環境のもとで食事、入浴、排泄等の日常生活の支援及び心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じて可能な限り営むことができるように支援している。・入居者1人1人が思い思いに過ごせるよう、できる限り本人の希望に沿い支援を行うように努める。
 ・コロナ禍ではないが島の感染状況に応じて、ドライブや、ヤギの世話、村のイベント(村踊り、ハーリー、マラソン等)に参加、応援したり、買い物等、地域の方に島ラッキョウや野菜などを持って来られた時などは、お料理会などを行う。感染対策に配慮しながら、地域住民との交流をとり、住み慣れた環境での生活を継続できるようにすることを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の法人本部は特養施設を運営しており、グループ法人の介護職全員が参加の月例「全体会議」を実施し、行事や諸問題の情報共有を行っている。グループホームにおいても独自に月例「グループホーム会議」を開催して事業所としての情報共有を行いつつ事業所運営に反映している。離島のため地域との繋がりが濃く、事業所の近隣との関係は密であり、野菜の差し入れなども日常的にあり地域との交流が行われている。
 コロナ災禍の影響から徐々にコロナ前の状態に戻つつある中、村のイベントなどへの参加も再開され、入居者個々の思いや意向に寄り添った生活支援を行うことに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人の理念を基本に、グループホームの運営目標を掲げ、それを満たし達成できるよう日々業務に務めている。・出勤時に理念や目標について再確認し、職員一人ひとりが心掛けるように玄関に提示している。	事業所の法人本部は特養施設を運営していて、グループ法人の介護職が全員参加の月例「全体会議」を開催し、行事や諸問題の情報共有を行い、グループホームにおいても独自に月例で「グループホーム会議」を実施して事業所としての情報共有を行いつつ理念の確認を行い事業所運営に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・新型コロナウイルス感染症の為面会等も感染状況にお応じて感染対策をし、面会時間を制限し、面会している。外出支援も同感染状況に応じて、ドライブや、ヤギの観察なども行っている。	コロナ感染防止の緩和を受けて、毎日14時～16時からを面会時間として再開している。コロナ禍で途絶えていた東江前地区の村踊りへの参加や伊江島マラソンの応援など、地域との交流を増やすことに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・新型コロナウイルス感染予防対策の厚労省や沖縄県から出された指針を地域や家族に情報提供した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は令和5年度は開催できグループホームの運営状況や活動の様子を文書や写真も添付し家族や地域の方々に知ってもらえるようにしている。	運営推進会議は2か月に1回開催されていて、役場の担当者や地域の区長、社協会長、法人グループの施設職員、家族会代表等の参加のもと、運営報告や行事予定などを議題に取り上げ、意見の聴取を行い運営に反映しているが、事故・ヒヤリ、ハットに関する報告が議事録にない。	運営推進会議は外部の参加者の目を通じて運営の改善を図る重要な機会であり、事故・ヒヤリ、ハットに関する報告は重要な位置づけとなります。議題として常時取り上げることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議への参加依頼や介護保険などに係る内容の相談や連絡、報告、また相互の情報交換などを電話や直接互いに訪問するなどしている。	運営推進会議に毎回参加があり、意見や行政からの情報をもらうことで事業所の運営に反映している。 議事録の持参の際などは、情報交換の場として活用している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・法人内で、身体拘束、虐待防止委員会が設置されており、定期的に会議を開き、身体拘束防止についての理解等に努めている。 ・玄関の施錠については日中は行っておらず、防犯関係上、夜間のみ施錠している。	身体拘束適正化委員会は、運営推進会議の後に実施している。毎回テーマを決めた研修会も行っていて参加者に周知情報共有を図っている。	身体拘束適正化委員会を運営推進会議の終了後行うことに問題はないが、身体拘束に関して専門性がない運営推進会議委員も居ることから、一旦散会后別立てで行うことが必要であり、必要な職員への周知の徹底に取り組んで欲しい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・法人内で、身体拘束、虐待防止委員会が設置されており、定期的に会議を開き、身体拘束防止についての理解等に努めている。 ・又少しでも疑われることがあれば上司や多職種間で報告・相談できるようにしている。	管理者は虐待に繋がる言動が職員に見られた場合は都度注意をし、月例のグループホーム会議でも情報共有に努めている。虐待に関するマニュアルが整備され、研修会が定期的実施されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全体会議にて、毎年勉強会や話合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居前後の相談や不安があれば、いつでも相談して頂くよう声掛けを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・相談窓口を設けている。 ・運営推進会議や家族会総会、また日常敵的に意見や要望を聞く機会を持っており、運営に反映出来るような体制も整えている。玄関に相談BOXも設けている	事業所は「家族会」という家族との交流の場をつくり、会の運営経費を徴収して家族会の親睦と事業所の環境整備に充てていて、年1回家族会の決算総会を行い家族間の交流や情報交換の場を設けている。	コロナ禍の影響で、家族や知人の訪問や面会がコロナ前の状態に完全に戻ったとは言い難いが、家族からの意見は事業所運営にとって重要なことから、家族向けに「サービスの満足度アンケート」を行うなど、事業所からの積極的な働き掛けに期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・各会議や申し送り、また日頃から常時意見などを出し合い話し合うなど、その都度問題を検討し反映できるようにしている。	管理者は日頃から職員の言動に注意を払い、問題点や改善点について話し合いを行えるように心掛けている。 情報共有すべき事については、職員全員参加のグループホーム会議において話し合いが行われている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・家庭環境や勤務に関する希望など、それぞれの状況把握に努め、やりがいや向上心を持って働けるように努めている。	法人本部と連携し給与規定の整備に努めている。 管理者は職員の休暇申請や突然の欠勤について職員間の調整を行い柔軟に対応するよう取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・令和4年度は介護職員初任者研修が村の補助により受けた。5年度は認知症介護基礎研修に村の補助で受けています。 ・各会議にて計画的に勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・機会があれば設けるようにしているが、島内の同業者はほとんど顔なじみということもあり、気軽にこえかけでき、互いの情報交換などを行っている。 ・また新規に介護福祉施設が島内にできたこともあり入所者の紹介やあっせんもやっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・希望や要望、相談等の聞き取りを行えるように努めている。 ・皆さん島内在住の方々なのでほとんど顔なじみなので、話しやすく聞きやすい関係性である。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・希望や要望、相談等の聞き取りを行えるように努めている。 ・皆さん島内在住の方々なのでほとんど顔なじみなので、話しやすく聞きやすい関係性である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・サービスの契約時に、入所者が他のサービスを希望された際は、家族や事業所と連携しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家族とはなれての生活で本人が寂しくならないように、出来るだけ家庭的な雰囲気でご過ごせようとしている。また入居者の方々から自らも積極的に家事をしてくださる関係性を築けている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会や電話にて本人の状況を報告したり、本人の思いを家族の方へ伝えたりしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナ禍ではあるが離島ということもあり、家族や知人、友人が島内に多く滞在していたため面会なども感染状況を見極めながら感染対策、人数制限、時間制限をし行う。	コロナ禍で途絶えていた知人の訪問も再開され、地区のボランティアの島踊りも楽しむ機会も増えてきており、野菜などの差し入れもあり普段の生活に戻るよう取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係把握に努め、トラブル回避や孤立しないように気をつけている。また、入所者の皆さん同士でできる事などは、職員が見守りしながら、支え合える関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・同じ敷地内にある特養いえしまへ入所された方がおり連携を取りながらフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・毎日朝食にパン、みかん、牛乳を出してほしいという方には、法人やご家族に協力して頂きたいおうしている。 ・本人の思いや希望を常に受け止め、共に可能な限り実現に向けて取り組んでいる。	入居時に入居者の思いや意向をフェイスシートにまとめ職員と情報共有に努め、入居後は担当職員を中心に日常生活のやりとりの中から気づき、思いや意向について、モニタリング、カンファレンスを行う中で、ケアマネジャーと連携しながらケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前の状況や、入居後も気になる点などがあれば本人や家族から些細な情報も把握できるようにしている。またその情報を共有出来るように申し送りや会議にて周知するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日頃から一人一人の状況把握に努めるとともに、月1回のグループホーム会議では9名全員の現状把握や今後の対応について検討している。また、毎日の申し送りではその時々の問題などについて様々な視点から意見交換をし、現状を把握できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアカンファレンスやその時々において、かだいが発見された場合にそれぞれの意見を交換し合い、本人のより良いケアの確立に努めている。	ケアマネジャーは入居者の思いの把握に努め、入居者毎の担当職員のモニタリングの意見や他の職員の意見も取り入れながら、カンファレンスの場でケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・業務日誌の個別欄に記入し、情報共有と課題発見、見直しなどに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時々に応じて、急な外出支援の場合でも相談に乗って柔軟な支援を行っている。 ・選挙の投票のための外出支援も行っている。 ・自宅に旧暦の1日、15日にウトートーしに行きたいと個別対応も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・防災訓練の際は、伊江村消防団や地域との連携、協力を行っている。 ・ボランティアで散髪してもらったりしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・離島ということもあり、伊江村診療所がかかりつけ医となっている。 ・本人や家族の希望を第一に適切な医療が受けられるよう、家族や医師へ代弁を行うなどしている。	伊江村診療所からは必要な都度、往診が行われ通院は家族支援により受診が行われているが、家族が不都合の場合は事業所が柔軟に対応している。 入居者の健康管理は法人グループのデイサービスの看護師が1回/週の訪問により行われていて、職員間で情報共有がされている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々の状態観察や健康管理を行い、異常や変化がある場合はその都度、看護師へ報告、連絡相談を行い、看護師不在の場合はオンコールにて対応し支持を受けたり、受診が必要な場合は家族へも連絡し協力をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院が出た際は、家族や入院先の医療機関と定期的に連絡を取りながら対応している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所契約時に必ず重度化に関する指針を家族へ説明し同意を得ている。 ・終末期についての内容は、法人や事業所としての方針やできる事などを周知、共有している。 ・令和5年度は1人看取り介護を行っている。	入居時に本人、家族に丁寧に説明を心掛け、重度化が進んだ場合は必要な都度、家族に説明、相談を行っている。 年1回看取りに関する研修会が実施されている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・月1回の全体会議の勉強会の年間計画に沿って勉強会を行っている。応急、AEDなどの心肺蘇生について実践を交えての勉強会は今後行っていく予定である。 ・終末期についての内容は、法人や事業所としての方針やできることなど周知、共有している。今年度一人見取りを行った。	事業所は安全対策委員会の担当を決めて、ヒヤリ、ハットや事故防止に関する研修会を行い、職員から報告のあった事例をもとにグループホーム会議(1回/月)において勉強会を実施し運営に反映している他、AEDの使用方も研修カリキュラムに取り込んでいる。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	・防災訓練を年2回実施、伊江村消防団、農協ガス、伊江交通の協力も得て行っている。緊急時の物品も確保し保管している。 ・又法人にて、感染症の予防や蔓延防止のために委員会の開催を3か月に1回開催し、指針を整備し予防策に努めている。	コロナ感染防止のため「感染対策訓練計画書」を策定して年1回研修会を実施している。 防災訓練は年2回テーマを決めて伊江村消防団他関係機関との連携しながら実施しており、実施後、改善点や訓練についての評価が行われ次の訓練に繋げている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に基き、愛、真心、誠意を持った対応を全職員で心がけるように努めている。 ・プライバシーに関する勉強会や、職員指導もその都度やっている。 	<p>管理者は、職員がプライバシーに関して不適切な言動が見られた場合は都度注意を行い、グループホーム会議の場では共通認識しなければならない事案について説明を行い、職員間の意識の向上と情報共有に努めている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことがあるか、行きたいことがあるか、本人の思いや希望を随時聞き取り、最大限反映できるように努めている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で、ある程度のメリハリをつけられるように工夫しながら、本人の意向を確認しその意向に沿って支援を行うように努めている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<p>起床時や入浴の着替えの際は好みの衣類を自ら選んでいただくように努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用に関しては、家族の方が訪問して散髪して下さったり、行きつけの理・美容室へ訪問して家族の方が連れて行ってくれたりしている。理・美容室へ家族の方が連れていけない方は、散髪ボランティアへ依頼してグループホームにてヘアカットして頂いている。 		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・嫌いなものは他のメニューに変更するなどの対応をして、食事が楽しめるように配慮している。 ・準備や片付けに関しては、その日の流れによるが、基本的にはお膳吹きやテーブル拭きなどして頂いている。 	<p>昼食及び夕食は、隣接する法人グループの特養の管理栄養士の管理のもと提供している。おやつ作りや誕生日食などのイベント食は入居者の好みを聞いて楽しく食べられるように心掛けている。下膳配膳などできることはなるべく手伝ってもらおうよう努めている。</p>	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・特養いえしまの管理栄養士により献立が作成されている。 ・食事や水分チェックを行い健康状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、個別の能力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄動作の範囲や排泄パターンを把握して、定時に誘導したりするなど、できる限り本人が気持ちよく排泄できるように支援している。	タブレットの排せつデータを参考に、入居者の排泄パターンを把握し排泄支援を行っている。 夜間のポータブルトイレの利用者は2人いる他、日中はトイレでの排泄ができるよう心掛け、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の状態に応じて水分摂取を促している。乳製品を中心に3種類ほど準備して提供している。 ・食材なども工夫し便秘症の方へ配慮をしている。慢性的な便秘症などの方には下剤投与の対応をしている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴への声掛けを行い、本人の希望に沿って支援している。	週2回の午前、シャワー浴を基本に入浴支援が行われており、午後浴や2回以上入浴をしたいなどの希望には、入居者の体調に合わせて柔軟に対応している。 入浴拒否をする者はなく、楽しんで入浴できるように心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人のこれまでの生活習慣や現在の身体状況を把握し、時間帯によって声掛けを行い、それぞれのペースで休息・安眠出来るよう支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の確認や二重チェック、症状の早期発見などに努め、変化や異常がある時、または気になる場合は看護師や医療機関、薬局へ報告。連絡・相談を行うようにしている。	誤薬事故を防ぐため、夜勤者が翌日の入居者の使用分を分包セットし、日中帯の職員は服薬前に再確認する二重チェックを行って事故がおこらないように努めている。 服用について気がかりなことは、診療所や看護師、薬局に連絡、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・これまでの生活歴や残存機能を生かすために、趣味活動や家事手伝い、散歩に出かける等の支援を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・行事や天候にもよるが、2週間に1回は外出支援が行えるようにしている。その際、行きたい場所があれば希望に沿って行くよう努めている。 ・家族の協力の物と島内の理・美容室へ出かけたり、慶弔ごとに出席したりということもある。旧暦の1日、15日のウートートの為に自宅に一時帰宅など支援している。	コロナ禍から日常生活が戻りつつある中、定期的な外出支援も再開し、外気浴や散歩、ドライブを楽しめるように取り組んでいる。 旧暦の1日、15日や季節行事に合わせての一時帰宅や理美容室へは家族の協力のもと外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在、現金の所持をしている人はいないが、希望があれば買い物支援などで使う分の少額のみ預かる管理は行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ過で自由に面会が出来ないが家族を通してや友人等に連絡し物の受け渡しや利用者が書いた絵や手紙等を渡したりして交流されている。 ・2人の方は携帯電話を持っており家族へ電話したりされている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や、季節ごとの花を飾ったり、行事ごとの写真を飾り見て頂いたり、月ごとに歌を貼りだしていつでも口ずさめるよう、楽しみながら穏やかに過ごしていただけるように支援している。 ・リビングの模様替えも、入居者の方々に支障が出ない程度に、また随時説明しながら居心地のよい空間づくりを維持できるように取り組んでいる。	事業所はコロナ感染防止のため食前食後のテーブルなどの消毒の徹底、夜勤者は手すりやドアノブなどの共用箇所の消毒を行い感染防止に取り組むとともに、季節の花を飾るなど居心地の良い環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングでの座席の配慮やソファやテラスで過ごしたり、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に、自宅で使用していたものを持ってきていただいていたいですよと説明を行い(テレビ、イス等)持ってきて頂いている。 ・入居後も、居室内の整理整頓などで定期的に家族と話し合う機会を作っている。	入居者の部屋は洗面所、ベッド、整理ダンス、エアコンが整備され、個人的な持ち込みについてはTV、イスなど使い慣れたものを自由に持ち込んでいて心地よく過ごせるように努めている。 居室内もコロナ感染防止のため毎日の定期的な消毒、換気を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・入居者の皆さんの出来る事を把握し、たとえ失敗があっても声掛けをしながら時には一緒に行うなど、なるべく自立した生活が送れるよう支援している。		